

「地域創造学環」の発足：
地域を創造する人材を育てるために

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平岡, 義和 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010112

「地域創造学環」の発足 —地域を創造する人材を育てるために—

人文社会科学領域・地域創造学環 平岡 義和

近年、地域社会の担い手となる人材の育成が地方国立大学の役割として重要視されるようになってきている。そこで、静岡大学では、昨年4月に人文社会科学領域と教育学領域の教員が中心となって全学教育プログラムである「地域創造学環」を立ち上げた。カリキュラムの柱は、静岡県内各地における「フィールドワーク」である。学生は、フィールドワークに必要な様々な手法を習得しつつ、1年生後期から4年生までの間、自分で選んだ1つのフィールドに継続的に関わり、そのフィールドにおける課題を探し、地域の方々とともに考え、その解決策を模索していく。同時に、全学で開講されている授業科目の中から、自ら見出した課題の探求と解決に必要な科目を選び、履修していく。つまり、自らテーマとした地域課題が先にあって、その探求に必要な科目を選んで学ぶ課題先行型のカリキュラムが地域創造学環の特色であり、これまでの学部教育とは大きく異なる点なのである(図1参照)。

こうした教育プログラムの下地には、人文社会科学部で行われてきたフィールドワーク教育

がある。その取り組みを引き継ぎつつ、単年度ではなく、年度をまたいだ継続的なプログラムとして展開することによって、より地域に根ざした人材を育てようというわけである。

この地域創造学環には地域の課題に対応した5つのコースが設けられている。

地域経営コース：地場産業、自然、食、歴史、文化などさまざまな「地域資源」を活用し、新たな地域の活動やビジネスを生み出す人材を育てる。

地域共生コース：高齢者、子ども、障がい者、外国人、貧しい人など、弱い立場に置かれやすい人々とともに生き生きと暮らし、活躍できる地域社会をつくる人材を育てる。

地域環境・防災コース：豊かな生活環境、地域環境や、自然災害に強い企業、生活、地域社会をつくるとともに、被災者への支援や被災地の復興に取り組む人材を育てる。

アート&マネジメントコース：芸術と地域社会を結ぶアートマネジメント力を持ち、芸術による地域振興や美術・デザイン分野の創作活動



図1 地域創造学環のカリキュラム

を展開する人材を育てる。

スポーツプロモーションコース：健康スポーツの実践、競技力向上、プロスポーツの進展など、地域のスポーツ環境の整備をトータルコーディネートできる人材を育てる。

これらのコースで学んだ学生が、卒業後に、地方公務員、地域に根差す企業のビジネスパーソン、社会起業家、学校教員などとして、地域の中で活躍してくれることを願っている。

こうした教育には、静岡県、フィールドである県内の市町、地元のNPO、企業などとの密接な連携が不可欠である。そうした関係者の声をフィールドワークに生かしていくために、昨年9月には「地域連携会議」を発足させており、本年の5月には、フィールドワークの報告会とともに、第2回の会議を開催する予定である。さらに、昨年4月から県の交通基盤部の協力を得て、社会資本整備に関する講義を開設しており、本年4月からは、清水銀行による地域金融関係の講義、さらには、ロータリークラブの全面的な協力のもと、県下の企業でのインターシップを行っていくことが予定されている。これは、地域創造学環に対する県内の期待の表れでもあり、地域の住民、自治体、企業などの方々にも手伝っていただきながら、次代の地域の担い手を育てることができればと考えている（図2参照）。

なお、地域創造学環のフィールドワークについては、「フィールドワーク篇」の日誌報告を、また地域創造学環のホームページ（<http://www.srd.shizuoka.ac.jp/>）もご覧いただければ幸いです。



フィールドでの報告



フィールドワークの様子

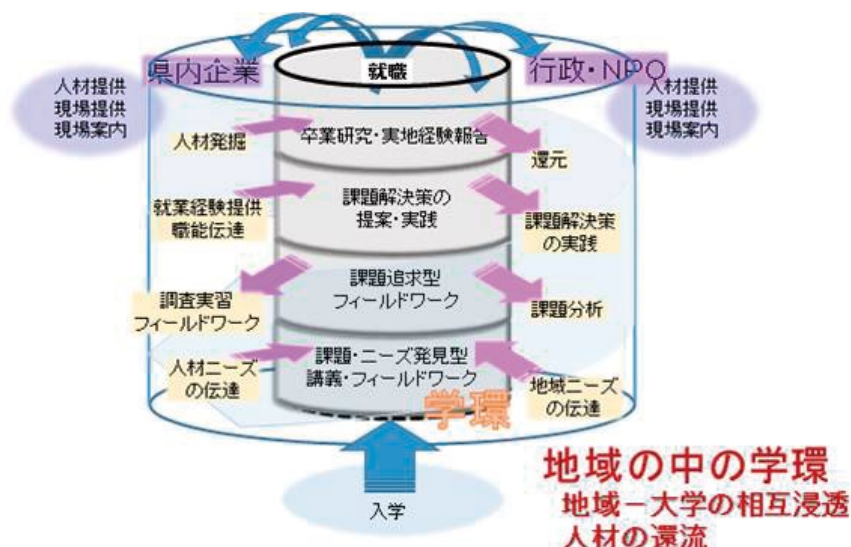


図2 地域創造学環と地域の関係